

平成30年第3回定例会 文教常任委員会にて質疑いたしました。

小野寺

キャリア教育の推進について、何点かお聞きしたいと思います。キャリア教育というのは、本当にいろいろな捉え方があるなど実感をしています。インターネットの中をさらっただけでも物すごい分量の、様々な大学や研究機関の先生方がいろいろな考察を加えていて、いろいろな考え方があるなど思うのですが、今回は、その中で、これは皆様も当然お読みになっていると思うのですが、古いもので恐縮なのですが、文科省の国立教育政策研究所が平成25年3月に、いろいろな現状と課題についてまとめたものを出していますので、そこからも課題などを拾いながらお尋ねしたいと思っています。

まず、現状、小中学校のキャリア教育と高等学校のキャリア教育を分けてお尋ねしたいと思うのですが、今、私がキャリア教育と言ったものは本当にいろいろな捉え方が、インクルーシブ教育もそうだったのですが、最初に確認をしたいのですが、小中学校におけるキャリア教育というのはどういうことなのか、まずそこを簡潔に御説明いただければと思います。

子ども教育支援課副課長

小中学校のキャリア教育でございますが、学習指導要領の中に位置付けが規定されております。具体的には、児童・生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくということができるよう、特別活動をかなめとしつつ各教科の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることということで示されております。

小野寺

私がこの資料を拝見したところ、いわゆる今、基礎的・汎用的能力が求められると。それ以前は、職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組みに基づく能力論、いわゆる4領域8能力論というのがあったらしいのですが、今は基礎的・汎用的能力の中でも自己管理能力や課題対応能力というのが求められるという記述もありました。もちろんこれは学習指導要領に明確な位置付けがされたということですし、小中学校が今、御説明いただいたようなキャリア教育の方向性以外のもあると思うのだが、こういう自己管理能力や課題対応能力、全人的な能力というのでしょうか、こういうものは大変重要になってくると思うのですが、この辺についてはどのようになされていくのでしょうか、どう考えますか。

子ども教育支援課副課長

今おっしゃられた生きる上での基盤となるような力ですが、委員お話のありました自己管理能力、例えば自分自身を知り、自らをコントロールしながら努力できる力、あるいは課題対応能力ということで、自ら課題を見だし、そして解決できる力、こういったことが重要になってくると考えられます。

現在の取組ですが、こうした力を児童・生徒に身につけさせるために、日ごろ学級活動、それから係活動を通して、児童・生徒自身にしっかりと自覚をしてもらうことが必要であると考えております。

小野寺

この資料を見ましたら、いわゆる好きではないことや、苦手なことでも進んで取り組もうとすることが自己管理能力を高めていったりとか、あるいは調べたいことや知りたいことがあるとき、進んで資料や情報を集めたり、人に聞いていくというような、これが課題対応能力につながるのか、まさに日常的な学習の中で非常に力を高めていく、そんなようにも感じました。

そうした中で、キャリア教育というと、一番すぐに連想するのが、いわゆる事業所、地域の中で訪問したり、実際に様々大人が働いている姿を見たりとか、こういうところだと思うのですが、これは県内の小中学校ではどのようにキャリア教育に取り組んでいるのでしょうか。

子ども教育支援課副課長

多くの小中学校では、いわゆる事業所の体験、職場体験をはじめとしまして様々な場面を通しまして、地域の特色を生かしながら、児童・生徒が地域で働く方々と関わりを持てるような取組を実施することを中心に、将来に役立つ基礎的な力を身につけるためのキャリア教育を展開しております。

中でも、例えば横須賀市では、横須賀商工会議所が市及び市の教育委員会と連携をいたしまして、地元で働く大人をマイ・タウン・ティーチャーと称しまして、市内の全中学校の子供たちに、勤労観、職業観を伝えるキャリア教育プログラムを実践しております。また、箱根町では、小中一貫教育を進める中で、9年間を通じて、児童・生徒が箱根町の歴史や産業等について学んだり、考えたりし、例えば箱根町に外から来られた方にアピールできるような力を身につけるといった取組を行っております。

県教育委員会では、このように地域に根ざした特色のあるキャリア教育の取組が、各市町村や学校に広がっていくように、全県の指導主事会議、あるいはキャリア教育研修講座等を通じ情報共有を図っております。

小野寺

小中学校のキャリア教育について、今、様々お答えいただきましたが、文科省の出したレポートを見て疑問に思ったことがありまして、平成25年当時の話ですがいわゆる年間指導計画にキャリアカウンセリングが含まれている割合は極めて低く、1割を下回るということです。ただ、キャリアカウンセリングというのは、私も余りよく知らなかったのですが、子供たちが将来、社会的な自立をしていく上で大変重要な手段だそうです。それは、新たな環境や課題への不安を解消させ、勇気を持って取り組めるようにさせるための対話を通じた個別の支援、と書かれているのです。ただ、これについては、取組がまだまだ進んでいないということなのですが、それも含めて、学校現場でキャリア教育に対して今、どのような課題があるのか、教えていただけますか。

子ども教育支援課副課長

キャリア教育に関しまして、現場からの意見等々を踏まえた課題ですが、一つには、職業体験等を実施する際に、地域の事業所や、それから外部講師等と

の調整等で一部の教員に非常に負担がかかっているということがございます。

それから、他の教員、それから児童・生徒、保護者、地域の方々の中で職場体験を行うことがイコールキャリア教育だというように狭く捉えられてしまうといったことがございます。

また、具体的に進路指導のない小学校におきましては、キャリア教育への認識がどうしても深まらないといったことがございます。

各学校におきましては、新学習指導要領を踏まえまして、改めてキャリア教育の理念を、児童・生徒や保護者を含めた学校全体で共有するとともに、小中学校9年間の中で無理なく実践できる計画とするために、今の教育活動を洗い出して、キャリア教育の視点で整理を行う必要があると考えております。

小野寺

キャリアカウンセリングに対しての御認識があればお聞きしたいのですがよろしいですか。といいますのは、学級のキャリア教育について困ったり、悩んだりしていることというのを学校の先生にお聞きすると、当時の学級担任の方の4割弱がキャリアカウンセリングの内容や方法が分からないと答えたそうなのです。

私も小学校のキャリア教育の中でキャリアカウンセリングの位置付けというのはよく分からないものですから、そのあたりの御認識をお聞かせいただければありがたいなと思います。

子ども教育支援課副課長

いわゆるキャリアカウンセリングということになりますが、こちらは子供一人一人の生き方自体、それから進路、教科等々、様々なところで、児童・生徒の迷いあるいは疑問等を受け止めて教育相談をしていくということになります。

先ほど申し上げましたとおり、学校では一律職場体験を行うことによりまして、キャリア教育をやっているという認識があるという意図がございますので、こういった個々の状況に応じたカウンセリングということで、将来のキャリア形成という形につなげていくということは重要であると考えております。

小野寺

職業に関する学習とキャリアカウンセリングというのは、どうも両輪のような感じで書かれていたものですから現場の先生方まだまだ戸惑いがあるとも思いますが、しっかりと進めていっていただきたいと思います。

最後に、小中学校におけるキャリア教育の充実に向けた今後の取組についてお尋ねいたします。

子ども教育支援課副課長

今後の取組でございます。先ほどの課題等を踏まえまして、キャリア教育の理念、それから効果的な進め方、こういったことを小中学校に広めていくために、県教育委員会が作成し、現在、各中学校で活用していただいております指導資料である、わたくしたちの生活と進路、こちらを全面的に改訂する方向で検討しております。

この指導資料ですが、中学生が実際に授業で使用できるワークシート集という形にもなっておりますが、今後は、小学校5、6年生からの活用、それから県立高等学校におけるキャリア教育の視点も視野に入れまして、児童・生徒が

将来の基盤となる資質・能力を身につけるという視点から、さらに保護者や地域の方にも理解してもらえるような内容に、全面的に見直しをしてみたいと考えております。

改訂に向けましては現在、政令、それから中核市の教育委員会等と検討に入っております。来年度には市町村教育委員会と連携しながら改訂をいたしまして、2020年度から各学校で使用してもらえるような取組を進めてまいりたいと考えております。

小野寺

これは、先生方大変お忙しいと思うのですが、キャリア教育、小中学校においてしっかり充実をしていくように、支援に努めていただくことを要望しておきます。

それでは次に高校生のキャリア教育についてお聞きしていきたいと思っております。先ほどの質問と同じなのですが、高校生にとってのキャリア教育を簡単に御説明いただければと思います。

高校教育課長

高校生にとってということですが、小学校から発達段階に応じてのキャリア教育というのをしていくことが大変重要と考えておまして、小中学校の取組も踏まえた形での高等学校でのキャリア教育ということでございます。

昨今、若者の早期離職や無業者の増加、これは様々学校から職業への移行プロセスに課題があるとの指摘もございます。そうしたことから、生徒が将来、社会的・職業的な自立ができるように、その基盤となる基礎的・汎用的な能力といったようなものを育成するキャリア教育の充実ということが大変重要と思っております。

そうしたことがございますので、県立高校におきましては、各学校におきましてキャリア教育実践プログラムというのを作成しまして、それに基づいたキャリア教育の展開をしているところでございます。

小野寺

今、キャリア教育実践プログラムというお話が出ましたが、具体的な取組はどんなことがあるのでしょうか。

高校教育課長

キャリア教育実践プログラムでございますが、こちらは生徒の入学から卒業までを見通した各学校で独自に作成しております指導計画になります。学校における全ての教育活動を通しまして、計画的にキャリア教育を展開すると、そうした形での学習プログラムとして作成しているものでございます。

高校段階、社会的な移行を準備する時期として重要な時期ということもございますので、各学校におきまして様々なプログラムを展開しています。具体的な取組としましては、例えば職業観・勤労観を育成するために大変有効であると言われているインターンシップ等々を行ったり、シチズンシップ教育といったようなことを行うなど、外部の人材を活用したりしながら体験的な学びを行うといったような形でやっているところでございます。

小野寺

今、インターンシップについてのお話がありましたが、今回資料として使わ

せていただいているものを見ると、高校におけるキャリア教育の現状というところで、いわゆる就業体験、インターンシップにかける時間が、調査をすると各学年ともゼロ日というのが最も多いのだそうです。

したがって、十分な実施時間が確保されているのかどうか。これは大変難しいのかなど、確保されていないのではないかと思いますのですが、本県の県立高校で取り組まれているインターンシップの実施状況というのはどうなっているのか。

高校教育課長

県立高校におきましては、インターンシップを希望する全ての生徒が体験できるようにということで、平成18年度からキャリアアドバイザー、平成28年度からはコンソーシアムサポーターと名前は変えていますが、県内10地区に配置をしまして、受入れ先の開拓に努めているところでございます。

平成29年度、昨年度の実施状況につきましては、134校の学校で体験生徒数が延べ4,577人となっております。

小野寺

就業体験が勉強への意欲も高めていくというような話を聞いておりますので、これはしっかり取り組んでいただきたいと思えます。

今、県立高校で様々なキャリア教育を実施していると思えます。その実施上の課題というのを伺いたいののですが、一つ気になっているところがあって、本県ではそういう言い方はしませんが、いわゆる教育困難校という言い方をしている自治体があるみたいですね。

今、手元に法政大学が出したレポートがあって、これは大阪府の府立高校でいろいろモニタリング調査をした結果らしいのですが、正直なところ履歴書を書き上げるのでさえ大変な生徒というのが数多くいて、勉強したり将来の仕事を考える上で困難を抱えている、そうした高校もあると思うのです。これらの課題というのをどう捉えているのか、教えていただければと思います。

高校教育課長

学校には様々な生徒の状況、学校の実情、違いといったものもございまして。今、御指摘いただいたような部分もあると捉えています。

キャリア教育は先ほど申し上げました、いわゆる社会を生き抜いていく包括的な力というところでの基礎的・汎用的な能力を育成する、職業的・社会的な自立の能力を身につけさせるというのが主目的になります。また、そうしたところでは、その中で大変有効な取組、力の育成にもつながるインターンシップ、職業観・勤労観を育成する取組が十分行われているかも重要だと思っております。

現代的なところで見ますと、個別の指導支援であるカウンセリング、キャリアアカウンセリングと全体的な指導のキャリアガイダンス、それをバランスよくしっかりと行っていく、そこが重要ということですが、そこがしっかりできているかというところが課題だと思っております。

小野寺

それでは、今後、キャリア教育の更なる推進に向けて、県立高校での取組、どのように行っていくのか、教えてください。

高校教育課長

今後ということですが、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等も考慮しながら、これまで以上に地域や関係機関との連携を密接に図ることで、インターンシップの充実を図る、体験的な学習を充実させるなど、そうした取組を発展させていくことが必要かと考えております。

具体的には、県教育委員会で現在取り組んでおります大学・企業との連携で、生徒が学習機会を拡大する取組であります県立高校生学習活動コンソーシアム、こうしたものを活用して、より一層体験的な学習の機会を拡大させていく、充実させていきたいと考えているところでございます。

また、地域との協働による学校づくりを積極的に展開していくということでのコミュニティスクール、この取組がありますので、地域人材を積極的に活用した教育活動の充実とともに、地域に高校生が主体的に関われるようなそうした工夫を図ることなどによってキャリア教育の推進に努めてまいりたいと考えております。

小野寺

はい。高校でキャリア教育を受けた卒業生が、就職後の離職、失業など、将来起こり得る人生上のリスクへの対応について、もっと指導してほしい、そういう声があるとも書いてありました。長期的視点から将来を展望した、生徒一人一人の人生を俯瞰した資料も必要だと思っておりますので、今後、県立高校におけるキャリア教育が一層推進されるようお願いをして、私の質問を終わります。